近道
狂歌
算筆早まなび
完

小倉文庫
イ 16
727

門イ16 號150 巻
門イ16 號巻
門イ16 號727 巻

田村治助編
重田一九補

狂歌近道算筆早學

書物問屋　江戸横山町三丁目　和泉屋金右衛門板

昭和二十七年六月二十一日　受入

大数之名之事

一　十　百　千　萬　億　兆　京　垓

秭　穣　溝　澗　正　載

恒河沙　阿僧祇　那由他

不可思議　無量　大數

小数之名之事

分　厘　毫　絲　忽　微　纖　沙　塵　埃

渺　茫　逡巡　須臾　瞬息　弾指　刹那　六徳　虛空　清淨

阿賴耶　摩訶迦葉　阿羅漢　涅槃　菩提　薩埵　那由他　不可説　不可説轉

東京都立中央図書館蔵書

田畑間数名

一町但し六十間四方　一間ハ六尺五寸
一反ハむつ〜ハ三百六十坪　今ハ三百坪　一畝ハ三十歩　歩ハ三十坪
一歩ハ一坪といふ　坪ハ六尺五寸四方

一分	長六尺七寸 廣六分五厘	
一厘	長六寸五分 廣同	
一毫	長六寸五分 廣六分五厘	
一絲	長六分五厘 廣同	
一忽	長六分五厘 廣六厘五毛	
一微	長六厘九毛 廣同	

狂歌近道　算法早学び大意

むつ〜よろあまた〜算書あれども各その撰ミ一見識あって初学の技助ともなる事大なるべし今又こゝに若きものハ年生年間ニ百年と経ては百年ありて拙法お場の法をハ不要なるよ学ぶらしめんことを専らこゝに仮てはこれハ算法の学ぶ人或ハ知雅ら出るよ田とるとて城めつて早学びらく数号とろうむらしむ

九々之壹

二六	卜二	二二	四	二三	六	二四	八	二又
三三	九	三四	十二	三又	十又	三六	十八	十
三七	止一	三八	止四	三九	止七	四四	十六	三十二
四又	二十	四六	九四	四七	止八	四八	三十二	三十六
四九	三十六	又又	止又	又六	三十	又七	三十又	又八
又八	四十	又九	四十又	六六	三十六	六七	四十二	六八
四十八	六九	又十四	七七	四十九	七八	又十六	七九	六十三
八八	六十四	八九	七十二	九九	八十一			

米お場早割

たとへば銭百文ゝ米
壹升又ハ合ゝ壹文
ゝハ銭百文ゝ米
壹升又合ゝ壹文
ゝハ銭百文ゝ米
壹升又合ゝ壹文
とうけて壹ろ

百文ゝ米銭壹升と同
時ハ銭のお場で米と
引るなり

米壹文ニ九斗　百文ニ有
セヨ又ハ六合〇四　一升六合〇四

壹文の米のお場と六
で割壹文ゝハ六ゝめが
銭ゝ

米壹文ニ九斗　壹文ニ有
六十目　一升又合

金銀銭相場之事

壹文
壹文の銭ゝ四
ゝ文ゝ
ゝ銭壹文の
ゝハ
ゝ

壹文の
ゝ文ゝ
ゝハ
ゝ
ゝ
ゝ

田畑間数名

一町但し六十間四方　一間ハ六尺五寸
一反ハむら〳〵ハ三百六十坪　今ハ三百坪　一畝ハ三十歩　とゝふ　三十歩ハ三十坪　一歩ハ一坪とゝふ　坪ハ六尺五寸四方

一分	長六尺七寸	廣六分五厘
一厘	長六寸五分	廣同
一毫	長六寸五分	廣六分五厘
一絲	長六分五厘	廣同
一忽	長六分五厘	廣六厘五毛
一微	長六厘五毛	廣同

狂歌道近道　算法早学び大意

むら〳〵よりあまた〳〵算書を示し給ふる各その撰ぶ一見識あって初学の技助とする事大なり今又こゝに若きものハ年生幼年の頃より学問を志して日夜怠らず拙お場の法を示し給ふ事安らしめんとて専らこれを仮て世に出ると雖も純粋才の人或ハ知雅なる者よりこれを用ゆるとも城ありて早学びし歌号とゝろむらしむ

九々之歌

二二	四	二三	六	二四	八	二五	十	
二六	十二	二七	十四	二八	十六	二九	十八	
三三	九	三四	十二	三五	十五	三六	十八	
三七	廿一	三八	廿四	三九	廿七	四四	十六	
四五	二十	四六	廿四	四七	廿八	四八	三十二	
四九	三十六	五五	廿五	五六	三十	五七	三十五	
五八	四十	五九	四十五	六六	三十六	六七	四十二	
六八	四十八	六九	五十四	七七	四十九	七八	五十六	
七九	六十三	八八	六十四	八九	七十二	九九	八十一	

米お場早割　金銀銭相場之事

たとへば銭百文ホ米壱斗又ホ合ゟ壱文ホハ銭百文ホ米壱斗又合ゟ壱文ホハ銭百文ホ米壱斗又合ゟ壱文ホハ銭百文ホ米壱斗又

田畑間数名

一町但し六十間四方 一間ハ六尺五寸
一反ハむら〳〵ハ三百六十坪 今ハ三百坪 一畝ハ三十歩 歩ハ三十坪
一歩ハ一坪といふ 坪ハ六尺五寸四方

一分	長六尺七寸	廣六分五厘
一厘	長六寸五分	廣同
一毫	長六寸五分	廣六分五厘
一絲	長六分五厘	廣同
一忽	長六分五厘	廣六厘五毛
一微	長六厘五毛	廣同

在歌道 算法早学び大意

むら〳〵よりあまた算書あれども各その撰ハ一見識ありて初学の技助とする事大なり今又こゝに若きものハ年生百年を限りとして五十ありの拙法お場の法を示す為なり安らしめんとて専らこれを編ス此法ハ知雅なる人或ハ知雅なる者よりて用とるべし故ありて早学びしるべし歌号をとゝのへむらしむ

九々之表

二二	四	二三	六	二四	八	二五	十	
二六	十二	二七	十四	二八	十六	二九	十八	
三三	九	三四	十二	三五	十五	三六	十八	
三七	二十一	三八	二十四	三九	二十七	四四	十六	
四五	二十	四六	二十四	四七	二十八	四八	三十二	
四九	三十六	五五	二十五	五六	三十	五七	三十五	
五八	四十	五九	四十五	六六	三十六	六七	四十二	
六八	四十八	六九	五十四	七七	四十九	七八	五十六	
七九	六十三	八八	六十四	八九	七十二	九九	八十一	

米お場早割

たとへば銀百文小米三斗五升又合ふ米五升ハ銀百文ふ小米ハ銀百文ふ米ハ何ほどといふ時の銀三匁の内ハ米ハ何ほどとうけて考る

百文ふ米ハ何升と問ふ時ハ銀のお場で米を見る なり

小米五斗 七匁五分 百文ふ米 一升六合〇四

三匁の米のお場を六で割三匁ふハ六ハ何ほどとうけて

米五分 六十目 三匁五分 一升五合

金銀銭相場之事

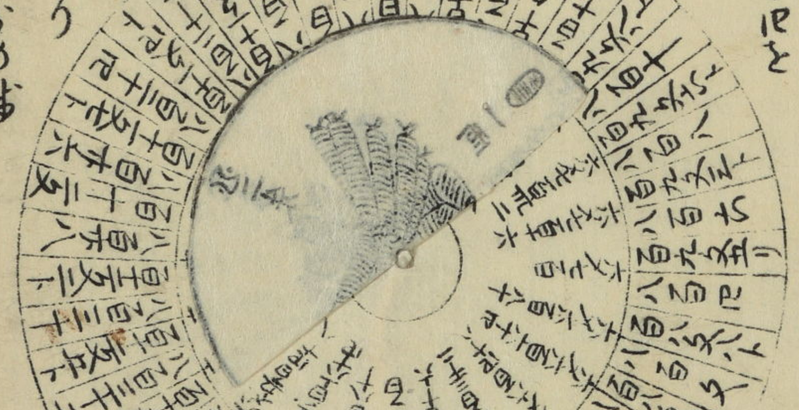
銭百文ふ小米三斗五升又合ふ米五升ハ銀百文ふ小米ハ何ほどといふ時の銀三匁の内ハ米ハ何ほどとうけて考る

百文ふ米ハ何升と問ふ時ハ銀のお場で米を見る なり

小米五斗 七匁五分 百文ふ米 一升六合〇四

三匁の米のお場を六で割三匁ふハ六ハ何ほどとうけて

米五分 六十目 三匁五分 一升五合



富家平生用文

文竜筆等八人世界一ゝ至宝学ぶべんハ有ざるべゝ所謂を用城なるとゝ日夜須刻も忘るゝ故ハ今こゝ小書家平生ゝ書を安永久ゝ肇を記して書世永城有くの一助とまるゝ此書ハ固て年筆全らしめんが為なり

八算の図

二 米拾弐万三千四百文拾六石七斗八升九合を 二つゝ 已外 何ほどゝ問

答 二万千七百二十八石二斗九升四合

五	四	九	三	八	二	七	一	六
夕	人	外	斗	石	於	百	千	万

八進四十 二一天作又
八進四十
六進三十 二一天作又
六進三十
四進二十 二一天作又
四進二十
二進一十 二一天作又
二進一十
二一天作又

同 うけきん

二万十より六万千の迄の間の数

夕	人	外	斗	石	於	百	千	万

二万十
二四八
二九十八
二三六
二八十六
二二四
二七十四
一二二
二六十二

二一天作又 目安の千ゝとなるこゝ一ゝ足合一となるひて九なるそなるとゝ

三進一十 目安の二ゝ足合七二つなるひとゝ八十あるるゝ

四進二十 六進三十 ゝるゝ

但二百ゝ足るもするゝ足るもゝ

南方万ゝ実数加ゆ仕る所ハ島田ゝ百ゝ万ゝ不ゝ諸年始ゝ祝ゝ上ゝ為ゝ代ゝ産ゝ為ゝ時ゝ恐怪ゝ

紙屋初為為選ゝ紙

新ゝ来ゝ出ゝ実ゝ出ゝ同前同出ゝ度ゝ納ゝ得ゝ例年ゝ至初為為ゝ為ゝ弐ゝ久ゝ実ゝ流ゝ納ゝ被成ゝ下ゝ所ゝ弐ゝ久ゝ実ゝ流ゝ納ゝ時ゝ

二月二百

時見

一山代丁米紙　二銭九厘
代金　銭　厘

一西之内　金弐朱銀　白米入　又　銭

一古代米　石　斗　升　又　銭　十銭八

右之通代銭合

三銭銭

右之通代銭合

當酉年御年貢米状

米弐拾弐石　一米弐斗　仕入金壱両　代銭弐貫文

仕入金壱両　代銭弐貫文

代銭合　弐貫文

代銭合　弐貫文

一三の段

米拾弐石二斗八升九合を

三つよりれい　如経しく同

但し米ほぐしてぬかとなるまで三つよりはちみしてこなるまでの

ひろいまでこれる同しところなり

四	一	一	五	二	二	六	三		
方	手	西	北	右	手	外	合	白	

九進三十

九進三十

六進二十　三一三十一

六進二十

六進二十

三進一十　三一三十一

三進一十

三進一十

三三十一

同　うけざん　三三九よりうんぐ

これは引れたるよりあの

方	手	西	北	右	手	外	合	白	

答

四万千百

弐拾

弐石

二斗

六升

三合

つゝ

三三九

三六十八

二三六

二三六

三弐十弐

一三三

一三三

三四十二

三一三十一　是は一ッある玉をこゝにとる

これは三ッ玉をとるなり

上は十をあるなり

三進一十

三三六六十一　二是は二と六よりうけてあ

仕ひ申候ては馬代三疋
遣りとり申候ては初歩ハ百文
ゞ出候ては当年孫作宜
敷候ハ歩ハ也ハ歩ハ
百文ハ年貢ハ
中ハ申初ハ田畑
中ハ出候ハ歩ハ
年貢ハ
年貢ハ
張紙
ハ出候ハ
年貢入ハ
ハ出候ハ
人出ハ

四
殺
段

米拾弐万三千四百
五拾六石七斗
八升九合
四百八拾四
ハ歩ハ
ハ歩ハ

九	八	七	六	五	四	三	二	一
万	千	百	十	石	斗	升	合	勺

四二天作五
八進二十　四一二十二
八進二十　四二天作五
四進一十　四三七十二
八進二十
四進一十　四一二十二
四進一十　四二天作五
四三七十二
四進一十
四三十二

同　ゆ
四五年ハ
ハ歩ハ
ハ歩ハ
ハ歩

墨紙板摺板板木遣
出銭の元下に出要用を
出毎合て手上方百姓分の銭
事取入に出せ手の中上変れ
形出れて出行なり

奈紙に人に出す状

いよく
急ぎ用日を出奈紙により
書付日並宜敷紙中書
出別条て奈来出場書を
賀人に出る出一緒に百姓の
無出用中人宜に出成ぬ
強て手に出れ夕方奈
毎迷の上方

又
米拾二万三千四百八拾
六石七斗壱九合を
八つ
日九八 仮名ぐ 同

八	七	五	三	一	九	六	四	二
夕	合	外	斗	石	十	百	千	万

又進一十　又四倍作八
又進一十　又三倍作六
又進一十　又二倍作四
又進一十　又進一十　又一倍作二
又進一十
又四倍作八
又三倍作六
又二倍作四
又一倍作二

同くあざん　又八四十よりつけて
引もてあるく事

又八四十	又七百五	又六百	三又十又	一又又	又九四十又	又六百	又四十	二又十
夕	合	外	斗	石	十	百	千	万

巻
弐万四千
六百九拾
壱石
三斗
又外
七合
八夕
ツ

紀要に出す係状
又仮名に出す出
為に様子に成中人に出る
熟や知こいて仮名に外
作かりの出れて百何とて
おく知て知ても出れて
に下に出れ中に石要を
出人に出る迷の仮名出
出て出る沢中中ても

又
又仮名に出す出
中に要用出成なく
出に出れ出に出れ出

又一倍作二　是八二と二まつかりるを
二十とまるなり
又二倍作四　是八二と四まつかりるを
四十とまるなり
又三倍作六　是八三と六まつかりるを
六十とまるなり
又四倍作八　是八四を八まつかりるを
八十とまるなり
又進一十　これハ十とまるひて上へ十
とあがるなり

[illegible]

海陸之法別事世間日法
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六進一十　六三天作五
六進一十　六進一十
六進一十　六一加下記
六進一十
六進一十　六三天作五
六記六十記
六三天作又
六進一十
六一加下記

六記六十記　六二三十二　六又八十一

六進一十　六石十斗　八斗九合と
六いつる　ひとれい　俗ひとり同

洞ひけざん　又六三年より[illegible]

又六三十　一六六　三六十八　一六六　六六世六　六七記十二　又六三十　二六八十二

答
武万五百
七拾六石
十五斗
三斗
十五合
又白
[illegible]

六一加下記　[illegible]

六進一十　[illegible]

六三天作五　[illegible]

六進一十　[illegible]

六記六十記　[illegible]

[illegible]

[illegible]

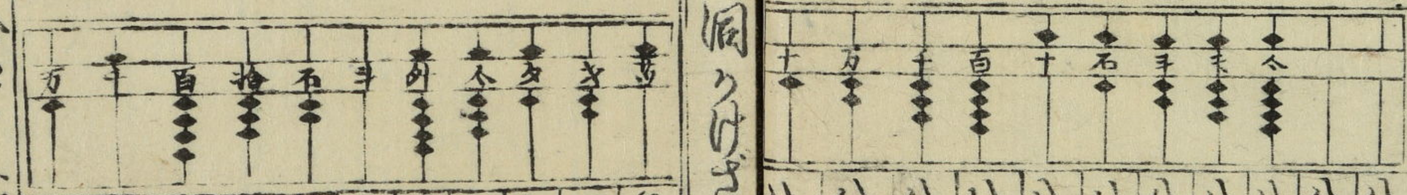
出ス所ハ出ス所ニ出ス所ニ出ス所ニ

八そ段

米拾二万三千俵同又拾
六石七斗八升九合と
八つよりハ何程と問

八又六十七
八六七十七俵
八七八十六

八俵天作又
八二加下俵
八進一十　八又六十七
八進一十　八六七十七俵
八七八十六
八進一十
八進一十　八一加下と
八進一十　八二加下俵
八三加下六
八俵天作又
八一加下と

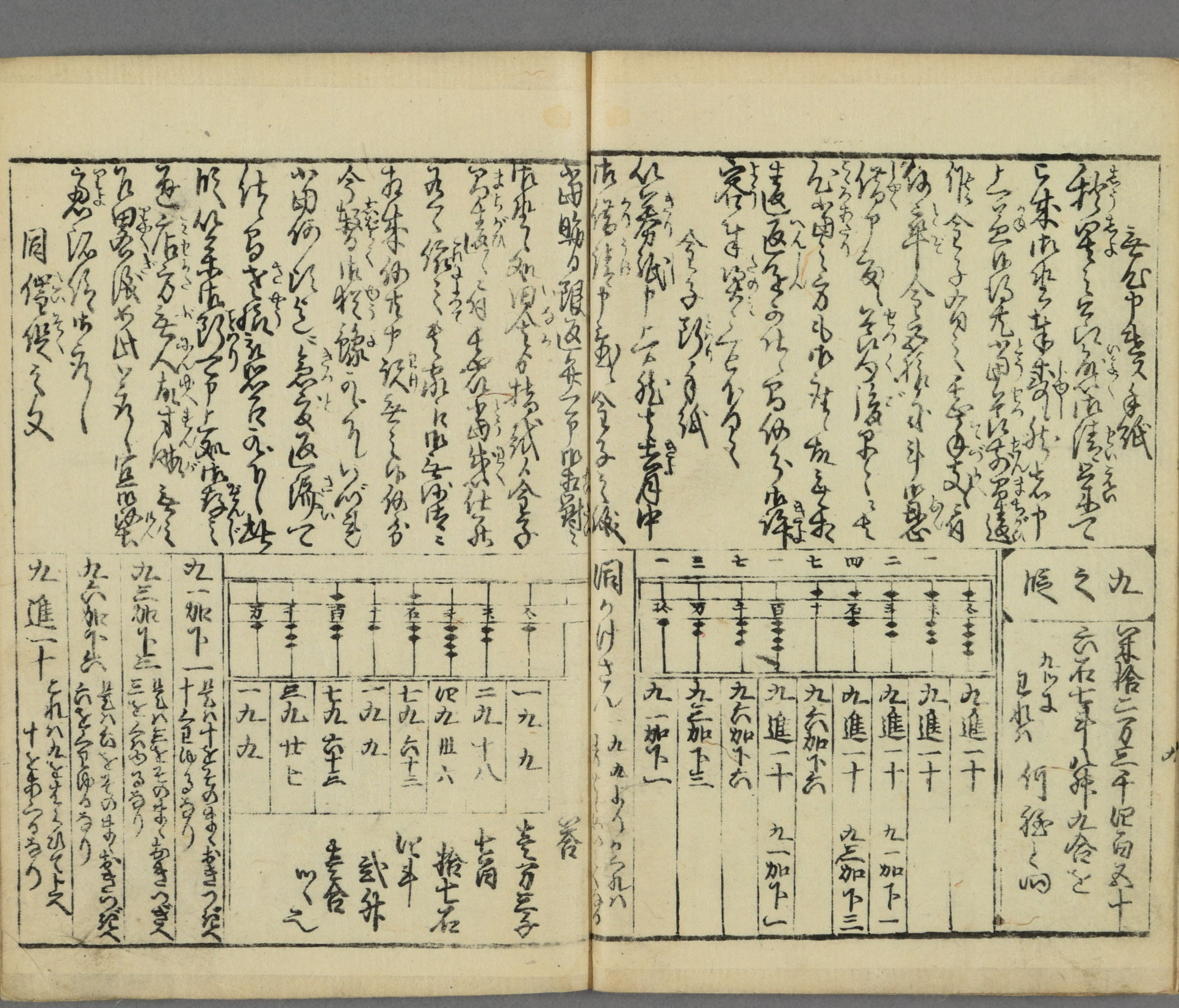


八又八俵十　米拾
二八十六　壱万五千
六八八俵十八　俵同
八八六十俵　三拾
八九七十と　弐石
八八十六　九斗
三八八俵　八合
俵八百二　六夕
又八俵十　二才
一八八

八一加下と　八俵とつぎへくるなり
八俵天作五　八俵八俵をまとめて
又よつくるなり
八二加下六　八俵とをそのまゝおきて
八俵とつぎへくるなり

問ひけさん　又八俵十ゆりの二十九の
ゆりそこなひめるく
遣る指引勘定この段分る
ゆりそこなひ一孔分
但一ゆりの米人数今子ゆりの
米俵ゆりそこなひ
のゆりなり

俵物の指きる文
出入帳米俵の飛情
帳くゝ銭金ゆり弦生米物
出入又くゝ帳くゝ銭ゆり指指
上下し出入帳の文
紙又別紙出入帳出入銭
同ゆ上し紙出入帳出入銭
ゆ指ゆ上し紙出入帳出入銭
其時のゆ指ゆ



問 二百三千四百四十
三百七十一 九合を
九九の日数 何程と問

九進一十
九進一十
九進一十 九一加下一
九進一十 九二加下三
九六加下六
九進一十 九一加下一
九六加下六
九二加下三
九一加下一

問りけさん 九九よりこれハ

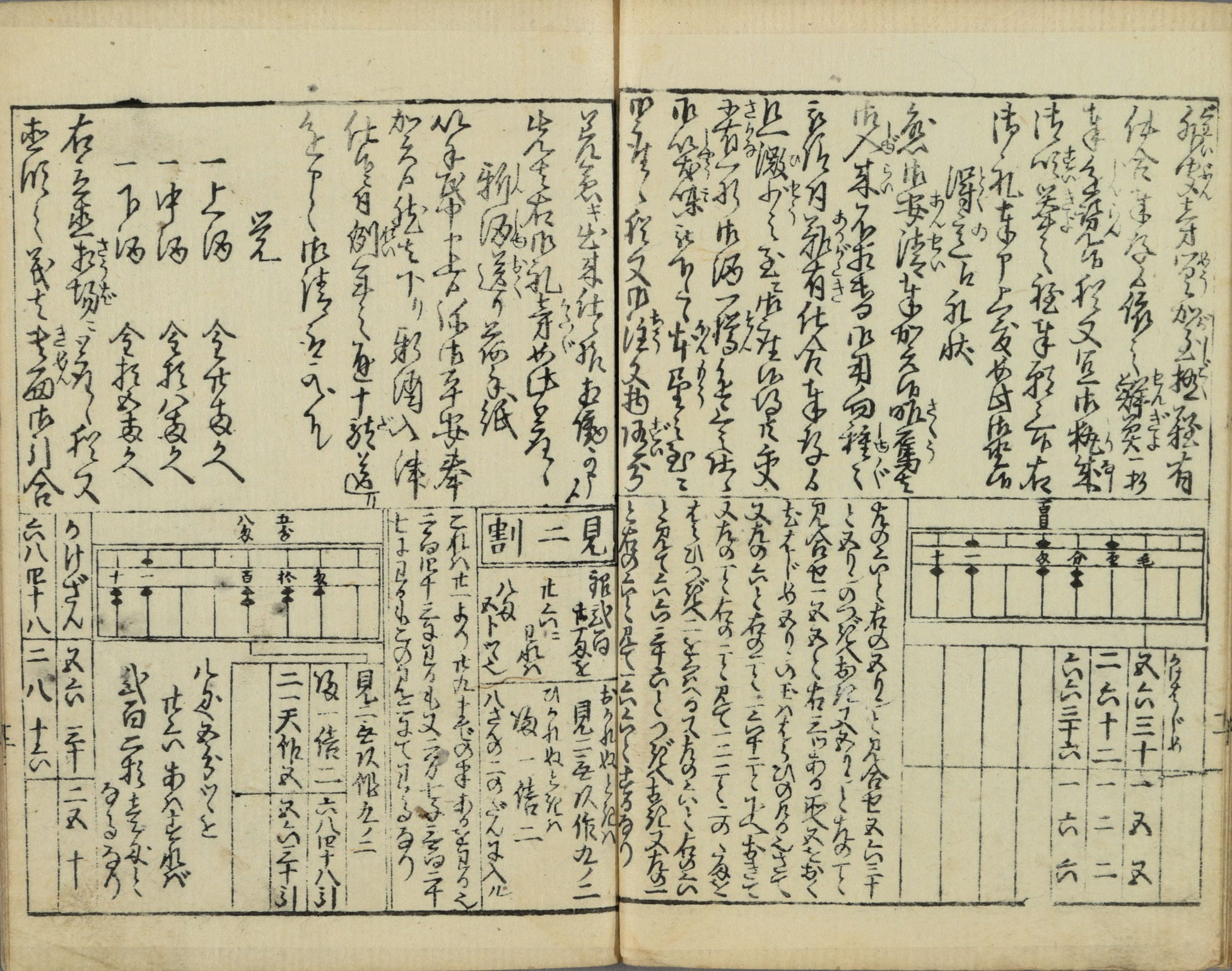
答 一九九 三方三子
二九十八 十二角
四九四十六 拾七石
七九六十三 四本
一九九 弐弁
七九六十三 三合
三九廿七 四くこ
一九九

九一加下一 九九八十をそのまゝおきつゝ九八十二をゆるゝなり
九二加下三 九八八をそのまゝおきつゝ九二三をゝゆるゝなり
九六加下六 九八八をそのまゝおきつゝ九六六をゝゆるゝなり
九進一十 これハ九をそのまゝおきつゝ九を十とあつるなり

同 俗解之文

見一割

この業八十二ようの十九まで長ふ見るとこれ見るとこの文百貫ふ百貫ふ百貫ふ



見三割

銀二貫六拾目を三百七十文ひられハ八文一ト たりすつ之

又八文の二ぶ引ゆ

見三五反作九三

反一信三

又八匹十引

一七七引

三三六十二

又六三十引

見三五反作九三

ひられしとなハ

反一信三

七八文十六引

二進一十

一又又引

六七匹十二引

少分とて多分六百四十を三百七十文あいたる丈三百七十文同く

分けさん

又六三十

六七匹十二

一七七

又八匹十

七八又十六

又六三十

一又又

一三三

三八匹匹

見四割

銀二貫八十九文を匹百八十六ひられハ

又百九十五ト ひられしとなハ

反一信三

又八匹十引

又六三十引

匹二天作又

又八匹十引

又六三十引

匹四二反作四

八九七十二引

六九又十四引

匹三七十二

反信四八銀

六六批六引

四二天作又

又八匹十引

又六三十引

又百九十六文ヲト

匹百八十六あいたる

二百八十九文

八百九十九文

分けさん

又六三十

六六三十六

六九又十匹

八九七十二

匹四批六

又八匹十

又六三十

又八匹十

六八匹十八

六九批六

又八匹十

又六三十

匹又二十

匹六二十匹

匹四批六

匹四二十

あ[illegible]ばかりはれて
仏事中ちきん文
来ん仏日ごとに十二回ごとに仏事
お[illegible]ばかりはじめる深くこれを
[illegible]ふ[illegible]お[illegible]中人々ごとに於
[illegible]横ごとに年に入来ぬ[illegible]
[illegible]くりしに[illegible]仏事入し
病中ごとに[illegible]
時ごとに[illegible]ごとに[illegible]
[illegible]ごとに[illegible]ごとに[illegible]
[illegible]ごとに[illegible]ごとに[illegible]
[illegible]ごとに[illegible]ごとに[illegible]

見五割

[illegible]百 十 一 一 百 十 石 斗 千 合
[illegible]千 百 千 千 千 千 千 千 千 千

[illegible]百又拾
四石八斗三升
八合と
又[illegible]
八[illegible]
六斗九升
八合又[illegible]

おりれぬ[illegible]
又[illegible]
ひろれぬ[illegible]
[illegible]一倍又
又八さんの[illegible]
[illegible]ちゆる

又三倍作六 六八四十八引
五五[illegible]八九七十二引
五四倍作八 八八六十四引
又二倍作四 又進一十
又八四十引

[illegible]百八十八
又百八十
[illegible]
三百又十四石八斗
三升八合[illegible]ある

[illegible]
又八 四十
又八 四十
又八 四十八

[illegible]
又又 二十又
又八 四十
又九 七十二
又九 四十又

[illegible]
八八 六十四
又八 四十
又九 四十又

見六割

[illegible]百 十 一 一 百 十 石 斗 千 合
[illegible]千 百 千 千 千 千 千 千 千 千

[illegible]万八百
八十又石又斗と
六千百
七十又[illegible]
六石八斗
六升ばかり

おりれぬ[illegible]
又[illegible]
ひろれぬ[illegible]
[illegible]一倍六
又八さんの[illegible]
六のさんの[illegible]

又六三倍作六 六一 九九引
七九六十三引 九九四十五引
六又八十二 一八八引
七八又六引 又八四十引
六三天作又 六進一十
一六六引 六七四十二引
又六三十引

[illegible]
又六 三十
六六 三十六
又八 四十
六八 四十八
七九 六十三
一九 九

[illegible]
六七 四十二 一六六
七八 又十六
九九 四十又
六九 又十四

[illegible]
[illegible]
[illegible]

以上中分の内百姓衆彼是
十四人の者に相撰て下々留主
中仕る事に成中入仕
候間別紙に
今回の実刀の内に出来合候
かるく形の者に成かるし添て来
知行の通り由安堵に成候
成り振を能く能く
取に成る所に一曲を入
を賜ん中し成に成
乎に成り
尚後年の為
細工の仕り成る中め
別紙に

見七割

第二百千
九百九十六石
九斗八升と
七十八石九斗八升
四石九斗六合
一信七
又八さんの
ものいつと用

七三四十二四又十二引
七六八十四
七進一十
又九四十五引
七六八十四
七進一十
又九四十又引
七四又十又
七進一十
又六の九引

第四百九十九
六合つゝと
七千又つゝ
あハせれハ
三万四千九百九十六石
九斗九升

おなれぬと紙ハ
四七三又仕九七
ひろれぬと紙ハ
又八さんの
ものいつと用

又六	三十
七	四十二
又九	四十又
七九	六十三
四又	二十八
四七	二十八

見八割

銀八拾四匁
九百八十二文
八十八匁と
ひろれぬと紙ハ
一信八
又八さんの
八のものと用

又六	三十
七	四十二
又九	四十又
七九	六十三
四又	二十八
四七	二十八

人に相と紙ハ文
安堵に成候
紙中に
紙中に
及仕る
四人に
四人に
中に
仕る
別に
扇に
中し
表に
紙
別に
紙
中に
紙
中に
紙
中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌の別の事

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

酒の別の事

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

味噌の別の事

仰通報書文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行司の割ふ事

きえで五十文の拵賃ふ時ハ行司を割てうけ用まるく

▲一行百六十文　代銀四十文　用方百文

代銀八行司をうけて用方ハ

[illegible]

▲代銀二分ハ　武百匁一分百

用方ハ銀四文ハ　代銀四分ハ

代十文一ト二二

他ハ用方と行ふるとき附

行司で割て他行をもる

▲きえで百二十用方ハ一ハ

法ニ行司ふ金

砂糖の割ふ事

各さとう拵の分ふ二ツうけて

[illegible]

▲代百三十文　一ハ九十文

用ハ三百ヒトメ用　一銀ニ分

[illegible]

きメ用代九でハ銀ハ

▲代百三十文　一メ用ニ分

[illegible]

[illegible]

▲十樽代ハ三百八十用

一樽用方三十六メ用

きメ用方代十六文八ト六ハ

きメ用のさとうの代ハ十六を

うけてきえで代とをるなり

▲一メ用十六文八ト六ハ　一分　三文六ト九五三

人参の割ふ事

きえでの人参代とハ用ハ

きえ文用ハ八分とハ出るもの

▲きえで二百文　用方一文用ニ分

他ハ文一文　代ハ文参文八永

[illegible]

[illegible]

諸證文手形之扣

店借状之事

一此毎月清右ヶ者生之四分
銀相納候成者ニ付我ホ
借人おもと屋と店借状之事
変寒ニ付店賃之儀毎月
晦日限ニ変動ニ付之儀
お清出ス店賃人分不残お渡
お渡ニ下ル人店借人用ニ付
当人引ニ付ニ付店賃下ル
一御公儀様法度之儀

人数多ハ其用ニ付毎月
用ヲ立てをうけて此ほて割分り
▲代銀四百拾匁 内百匁ニハ
右日数 代ニ日数ニ付
人数の代ハ四匁をうけ用分ハて
日数ハ一日用ハ代銀
▲代六十匁 内百匁ハ
内百匁ハ 代銀
銀米分の米の代ハ四匁をうけ
お銀で日数ハ用分銀ト
▲七匁五分 二匁ニ
内百代五十目 用分ニ付

綿ノ割ヲ変

指ゞんの代ニこの銀ハ二匁をうけて
米、米の代ニ当るべし
▲十銭三十匁 内百匁
代金七十匁 内百五十目
米ニ付ハ代銀ニ付ハ

不及申所並店並ニ宗法
為お清ヶ月賃分ヶ月賃
法衣僧員ニ賃ヶ月賃
月賃ニ変ニ付
月賃ニ変ニ付
一宗旨ニ代ニ付ニ宗ニ付
具形ニ付法ニ宗ニ付
永年中ヶ
右ニ付何ニ付ニ変ニ付

右ハ下ゞんの分をあゝ
いろ〳〵ヶ

変米ヲ割ル

借物ヲ割ル

米ヲ米お銀の米で借ヲ
ヲ日ル時分をのるを
▲米九十俵有 内百俵
年借ヶ月 代金三十匁
ヲ米ハ六ヶ月銀用ヲ日ル時
分ヲ米のお銀
▲米二年二年分合 米ヲ
代 九斗
借物ヲ石ヲ
ヲ日ル時ハ

来仕申候我太郎殿ニ為被遣
ゟ被下候米代銭ハ
中ゟ補人仰付候ニ付状為件

年月日　庄屋人　雅
庄借主　雅
雅殿

年貢米人法状之事

一此仰付候所ゟ中者出所ゟ雅
好ゟ米雅成者ニ付我太郎人
雅成尚仰付年仰付ゟ来仰
年仰付ゟ出張之仰出ゟ

▲年貢百五十俵　五百八十石
但壱斗入

おゐてハ仰付ゟ石のこくなること
六ツ五ト五ハおゐてハ
▲石ゟ仰付ゟ
六ツ五ト　石ゟ仰付ゟ

扶ゟハ下ハ五ゟ五ゟ五ゟ
二ツゟ五ゟて俵の数しる
▲八俵　三十六俵
五俵
下のゟく仰俵ゟ
ゟ五一俵ニハ
ゟ五一俵ニハ
ゟ五一俵ニハ

元利を元の銀に加へるべし

▲元三百五十匁　巻　五十八匁八ト
一ヨリ八ト

十二月一ヨリ二分ヨリ付合セ
元一分て元へまつこりけ

▲元三百六十匁　元利を四ふ元一ハ
一ヨリ二ト　利分へ付へし

巻四百十匁八ト四リン

元利とも年利一割三分ヨリハ
元一分て元へ掛る

▲元三百六十匁　巻
一ヨリ二ト　四百〇三匁二ト

九ヶ月ヨリ利　元ヨリハリンへ
九ヶ月元一分て利をつけ

▲元百八十匁　元利を四利ハ
元ヨリハリン　九ヶ月元一分て
元へつける

巻二百十四匁九ト七リン

元ヨリ利年利年利四ヨリハ
元ヨリ利を元元で利と割

元ヨリ利ハ元ヨリ元ヨリ
元三百六十匁　元ヨリ元ヨリ
元ヨリ元ヨリ元利ハ元
月ヘ利をつけ一九元つけ

▲元金六十匁　元利
二ト　一九ノ八元一ニ　四百三匁二分

金の利ハ元ヨリ元て他匁の
金のうるふて元ヨリ割ヨリ

▲十匁ヨリ元　元匁元ヨリハ
元ヨリ元ヨリ利他銀
一匁二分　利ハト

元ヨリ元ヨリ七分ヨリ利の時ハ
元利で十匁ヨリ元ハヨリ

▲十匁ヨリ元　他匁元ヨリ
七ト五リン　あるとき四
元匁元ヨリ元ヨリの利

元ヨリの利ハ元ヨリの金を元ヨリ元
一六で割　金のうるふ元ヨリ

▲十匁ヨリ元

年度に市銀銀札銀中間
為ヶ為年年ヨリ人清状四ヨリ三
如件

年号月日　吏人　惟
人名　惟
年号人　惟

惟友

年季年ヨリ人清状

一氏何松ヶ年ヨリ元ヨリ分銀
年ヨリ利銀元ヨリ我市清人
元ヨリ元ヨリ年分年利他ヨリ元
中年他ヨリ年ヨリ元ヨリ市銀

今年出来し稲之生育方に付
きまに指出申不宜出し則
右今年分出来高只今出張之下
役人江申出られ上を出職分
取調出来余に付稲江申間
敷分出仕為生育冬之取扱
之出来對に出来

一御出役様出張之儀
ちなみよりまた文言を
一年番之処出し申出
ちなみ同文言なり
乳田きまに処之状

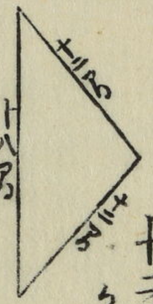
一反六ト 金一歩二歩六ト利
何歩高分にあるる
九歩高分二朱二歩分の利
稲の高ち永の高分は九六ちけ
四で割附 八六歩高分は
▲三反二九六分 百文二分四文の利
四ふてるる 伊歩高分にあるる
六歩二分高分の利
高ちの歳伊歩高分と四ふ附
九六分の稲を四ふて二歩るる
▲百文二分四文の利
金六歩二高分の利

田畑の割之事

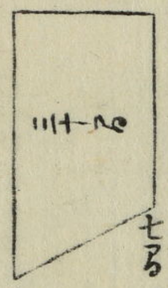
田畑ハひろさ長サをちけ合セ
ちなみ田法の三で割るる
▲長サ三十七間
廣サ十八間 三反四畝
十六歩

一此村之内出来田畑及伊村
伊之清掃ニ付出所 作成者
有出張金之高年伊程に拘
宮出仕ニ付乳田
分年之内出来方乳
田きまに指出申不出来
一清掃出来切ニ付波の内
年番之内何程之波出
作成出畝 業中当家人若
病気ニ付乳汁不出仕
代おとこの内角編乳野金

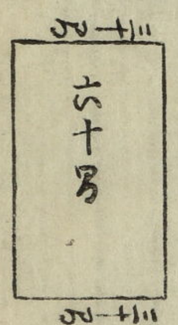
十二間十八間を
ちけ合セ二つに割て
坪数をとる
百の八坪



三一六をとりけて
ちるれり
伊人と云
十二間



ちて七九分を入て
一二六ちけて
横ちると
二百四十坪



ちて二九六を入て横ちけ合セ
二つに割て
坪数をとる
千八百坪

仰付ル今ハ公儀ニ任シ文ヲ以ヲ
一宗旨ニ仰付ル事ハ仰付ル事ハ
中ハ[illegible]ハ寺法ニ[illegible]
右之条々遠慮ニ[illegible]
清人[illegible]ハ[illegible]
為後日之札仰付ル如件

地面壱反一札

仰所仰付ル同心例来角分何
[illegible]月地面表ニ[illegible]
切町[illegible]右地面代金
仰付ル[illegible]

拔木割之事

拔木ハ[illegible]
十二ヨリ割ル[illegible]

▲何ス[illegible]
[illegible]仰十丈[illegible]
[illegible]

何双ぐ之事

代銀ヲ仰ぞうぐヨリ[illegible]
仰[illegible]
▲代[illegible]
三双ぐヨリ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
代銀 [illegible]

仰[illegible]
中所[illegible]
遠[illegible]
[illegible]
如件

壱反ヶ田地之事
合何田仰町仰反仰畝
右之田地[illegible]代[illegible]
仰[illegible]
壱反中所[illegible]
拔[illegible]

拔地の割之事

[illegible]地[illegible]
▲十[illegible]
[illegible]
九十二坪 三分有

仏料の割之事

仏料の[illegible]人[illegible]
▲八百[illegible]
三百[illegible]

投数の割之事

[illegible]代[illegible]
▲銀三百[illegible]
[illegible]

[illegible]

船賃運賃之割

[illegible]

▲米三百五十石の運賃
十六石三斗五升五合五勺
百石ニ付運賃七百四十

落の割之事

[illegible]

▲三人四方ニ　落百[illegible]

借主への割之事

[illegible]

▲三十日　九十六文
[illegible]

年とる割　十干十二支

年の数十二より数ひ引のこり十四で引てこの年より[illegible]

▲享和二年戌年から百九六年
後八幡の年とのふ附
答　己のとし[illegible]百九十八百下六
年しるしき十二で引おくし弱
六つあり別に法一代とおき
代内六つ引八八つまるから百年
の戌のとしより所る戌二度
る丑と[illegible]八つ巳の年と
十干八十は[illegible]ひて引弱り
十二で引てこのこり分[illegible]る

▲右の年より十干八幡[illegible]
答ひのとのふ　九百九六ゆと
おき十つ引おく[illegible]六つよりある
別に法と十二とをてけ[illegible]六つ
ひけばのこる六つ今年壬ゆへ

私ノ月次ハ五月ヲ初ル事ハ
仏家ノ法

里子ノ駄賃ノ事

一里子ノ駄賃ハ里子ノ数ニ応ジテ
為ニ商科ニ三ヶ月ニ金何程
ノ事ニ申ス数ニ三ヶ年ニ
我ガ方ニ部中所家ニ
右ノ如ク部中ノ数ニ
ヤキ一切中数ノ事
一里子ノ帳ニ付テ数ヲ
記ス日ニ付ノ時ニ出ス

お西んぐまられバいい見ひの
しふあるなり
その正トと呼ハ日のうぎと十二つ
たるひこ元日正トよりぞくる
▲これハ正月より毎月末日ニ
日ぐぞと毎日毎十毎日ニ
これと十二つたるひのけこて
ありの数を元日の数ニよりの
くりてこれハたるこのり
毎小の月ハ廿九日ニ入ル
その時の十干なしハ十二ヶ
たる元日の干 ようぞくる
▲たるこ毎ニ日うすを金て十つ
たるひて数りたるこの元日
の十干ようぞくたへある
ニこへくるニたるなり

馬かるゑふ合の割

おちこちと九十日ハて又人余

一三ヶ月ニ中ノ数ニ
右ノ如ク部中ノ数ニ
札ノ事

今ノ法用ノ文

一今ノ法ノ日数 但今ノ金ニ
右ノ如ク我ガ家ノ為ニ
分ノ中ノ如ク家ニ出ル
何ノ限ニ利ニ応ジテ
ノ中ノ数ニ札ノ事
不ニ通ニ子ノ札
一里子ノ法ニ応ジ

九を二ヶ割て一人あり
▲歩人ハ又ハ
歩人ハ三リ
歩人ハ六リ
歩人ハ四リ
歩人ハ二リ
る一足を又人ふてちんせん
九一又ハ九十九ヶ
おきたのり合て二十里ヨ
ヨリ足へ一人の余ふまを
りけてあるなり

無尺くの割ニ支

又人ふて足足くと四三十二又ハ
一二又ハ割 りけ金をりけ
▲い金四五文出ス い百四二文二分ハ
ろ月ハ五文出ス ろ八十七文二分ハ
は月ハ六文出ス は百一文二分ハ
に月十ハ文出ス に百二十六文二分ハ

我が方にて毎年世話
仕候家々へ別格代金百疋被
相渡候趣文政中より被
仰渡候ハ我が家ハ代金
壱分と無所にて之我が
跡式相續ハ不相續ハ
後代に伝ル事

一我等名跡相續之儀無所
松江藩にて相續中に伝ル事
家柄不賤者共者金

数百年ハ代と代お切の代で居る時ハ
いづれの所も有ハ有ハ
有ハ有ハ有ハ代金と
法と定かなし所ハ掛ると
但し所ハ居ると公儀
おろかなる法と定まる
むかしより生てゆひ
別れしらけるおしふこと
公ことろつけて有べし
そろそんはうと表の三ヶ
別て代ハへらけて有ハ

二千表相渡ル事ハ次
男行之助と申者
第金子百表相渡
中ハ米子お花ハ金弐百
指年ハ百兎ハ成無所
松江藩にて相渡中ハ右
第二男忠助ハ
表迄相渡中ハ百兎ハ
一礼ハ伝
金子引出ル礼
一金百表

▲右之内へ
表
別て
人表
表
表

右ハ去ル寅年入用に相備用中
一応為ニ帰ル七月晦日限
急度返済ス可ク若シ為
引出ス我ハ本宅并ニ家財
別紙ニ付キ為ニ指入金ヲ
期月ニ至リ返済ス可キ
右引当ニ為ニ証ニ
至ル迄相違ナク為ニ
仍テ如件

御関所ニ申出

差上ル一札ニ

諸国旅籠屋同宿

京大坂伊勢東海道筋駿府
奥列西ハ下列東ハ列後同高崎中
仙道筋桐生足利大間々迄

日本橋室町弐丁目
京屋弥兵衛
同居
山田屋八左衛門
江戸伝馬町
鳥屋佐右衛門
佐内町
和泉屋長兵衛

出日
正月二日
毎日

尾張名古屋

出日
一六ノ日
名古屋御門外
尾張御宿所

一氏者他人大坂之所通り
御関所ニ申出遣為指出
ニ付ス為後日仍如件

寅年
月日

江戸伝馬町
長兵衛

宿

御関所
御役人中様

甲府 出日 二七ノ日 名古屋伝馬町 平列屋助左衛

越前 出日 二六九ノ日 本両替町 三河屋伝左衛

京大坂

河越 出日 一四八ノ日 浜戸町横丁 河越屋志津兵衛

武州熊谷 出日 五十ノ日 忠近辺 小舟町一丁目 金屋伝左衛

出日 四九ノ日

すべて無る記文ハ文字と云ハ誤字
なくやう選べ
一二の字ハ長く或と出べ

十二月々異名

正月　孟陽　端月
二月　仲春　如月
三月　季春　弥生
四月　初夏　卯月
五月　仲夏　皐月
六月　晩夏　麦秋
七月　初秋　文月
八月　中秋　葉月
九月　暮秋　菊月
十月　首冬　小春
十一月　陽月　中冬
十二月　除走　師月

如意宝珠之日

大吉日なり

正五九　亥日　二六十　巳日
四八十一　巳日　三七十一　申日

雨々早考

子辰申　はつかの日ふる
丑巳酉　はつかの日ふる
寅午戌　はつかの日ふる
卯未亥　はつかの日ふる

大方八はつかまりこと多くしるべし

上品高岩屋　出日六十一六
同茂品相生屋
室町二丁目　京屋弥三郎

上州茂品相生　出日一六
同高橋弥兵衛　四九
出日　一四ノ日　六九ノ日　せと物町　伊勢屋作兵衛

奥州仙台屋
出日　六ノ日　一ノ日　浅草作右衛門　京屋弥三郎

水戸　船品屋
行徳河岸
金子門三郎

考品　諸々
出日　不定
名高八幡屋
佐倉屋

同　能所海辺
不絶所海辺
義　鶴川八郎
小あみ町二丁目
考隠屋作兵衛

八日市場　小あみ町一丁目
出日　二六ノ日
中紀屋宗兵衛
同所　伊勢屋徳兵衛

銚子　小網町三丁目
かぶと屋長兵衛

佐渡　小船町二丁目
船屋
佐渡屋吉兵衛

預成就日

正月 二ノ日　三月 四日
五月 六むま　七月 八れ
九月 十ひと　十一月 十二ね

六曜星之事

赤口日　六月十二月　かるはあしゆびんさるべつに午のこくかよし
先勝日　一月七月　いそぐべきことは八つ時分なれば午の刻
友引日　二月八月　あさ夕大吉午のこくあしあい引しそまつぶる
先負日　三月九月　ちぶくはるるまよ月てゐ午ノ刻酉までよし
仏滅日　四月十月　ゆゆしきもひとびとつけべるがびくるり
大安日　五月十二月　毒つぢん月ことまゝ物ゆるも大吉日なり

書判相性之吉凶

木性　吉　巳
土性　吉　酉
火性　吉　亥
金性　吉　子
水性　吉　午

不成就日之吉凶

正月 三日十九日 十一日十七日
二月 二日十八日 十日十六日
三月 一日十七日 九日十五日
四月 四日十八日 十二日十八日
五月 五日十九日 十三日十九日
六月 六日十二日 十四日晦日

大吉日　甲丙庚壬子寅乙巳辛酉
吉日　戊癸　十日伊勢月八丁大吉開運の日

下総佐原

第一番　二丁目　古家屋敷之清

鳴巣

三八ノ日　道中筋　近　亦田稲荷川岸　利根川屋孫七

加加

道中筋　巳九ノ日　本郷五丁目　加列三度所

越後高田

日本橋すきや丁　いせ屋安清

小田原

十二月又六月　松丁二丁目　鍵屋長平次

紀州和歌山

高野　芝井町　越前屋又左衛

伊勢加上田

七ノ日　亦田弁天横松枝町　小倉屋仁三郎

上州館林

出日五十ノ日　板木町稲荷前新宅　殿屋作蔵

下総古河

小田町一丁目　古河屋与市

下総佐倉

亦田稲荷川岸　利根川屋孫七

不忍

毎月出　亦田弁天横松枝町　伊勢屋新吉

紙屋荷帳之事

いとよき　きうそく　かちびさし
イコヨキ久位保千リ久正
一二三四五六七八九十百

藁屋荷帳之事

ダニリヤンサキスウウロ　ヒヤ　パー　キウ　ダニ
|||ㅅ子上上三文|
一二三四五六七八九十

荒物屋荷帳之事

ダイヤニ　ガラニ　ツジカタリリウ　シヤノヌケキウ　ヘル
大ハ△ㅅ又又又又久〇
一二三四五六七八九十

煙草屋荷帳之事

のロヤきれまるぬけきちしゐまをの
ノハ山レ〇日吉メヤノ
一二三四五六七八九十

基数之事

一二三四五六七八九十
壹貳參肆伍陸漆捌玖拾

板木

小町二丁目　藁屋卯八

上総東金大綱屋

出日　文ノ日　堀江町四丁目　上総屋吉兵衛

月　十ノ日　小網町三丁目　桔梗屋吉兵衛

下総千潟屋

小網町三丁目　桔梗屋吉兵衛

其邪気を祀ふ為遠近沢伝く近国通用大破ふく
場所屋とをもつて早

小倉金之助

しよりうをと
う同入ハ　ハ　ハ　

本書中の狂歌は、田丸洽助の「狂歌割」（寛政二年）と同じ、田村治助は田丸と同人かも知れぬ。補校者は十返舍一九である。

小倉金之助

農家調寶記　高井蘭山著　三冊
同附録續録　大藏永常著　二冊
農家用文章大全　高井蘭山著　一冊
此出ハ文書とうざらに今日・永扱ふべき耕作鬼畜村役向ホ要用の文字と擬ゑ載る五人組帳をかゝ
増補紅梅用文章大成　臨泉堂筆　一冊
増補年中用文大成　同筆　一冊
實語教童子教證註　振鷺亭著　一冊
古狀揃證註　高井蘭山著　一冊
御成敗式目證註　同上　一冊
源平古狀揃證注　同上　一冊
右ハ先の古狀揃ハ小はそれバ同一　俗文
ふから大ハ優まり後方ハ經典余師の法
ゆへたれ〻況童小後ゐひ庵き出なり
聖勅記　十露盤獨稽古　山本三著　一冊
江戸横山町三丁目
和泉屋金右衛門版